号外 令和７年度 第７号

Tobu通信

東部教育局
東教発 Ｒ７．９．１２

主権者教育

ちいわか総選挙！

自分の一票が、社会や地域の未来を創る
～鳥取市立稲葉山小学校～

「ちいわか総選挙」は、身近な地域課題等について考え、実際に一票を投じ、その結果が施策などに反映されるという体験を通じ、若者の政治的有効性感覚（自分の行動や意見が政治に影響を与えられるという実感・感覚）を養い、積極的に投票参加・政治参加する主権者としての成長につながる実践的な学びの機会を設けるものです。「ちいわか」とは、地域とつながり、地域に愛着を持ち、地域のことを我が事ととらえて、積極的に投票その他政治参加する若者の意です。

今号外では、「３人目『青谷弥生人』の名前」という投票テーマで、公募で選ばれた４つの名前候補について「ちいわか総選挙」で投票する鳥取市立稲葉山小学校の様子を紹介します。

①公開公聴会（各党代表４名が前に立ち、それぞれの名前の良さを伝える）

A 穂波（ほなみ）
「穂波」という名前からは、稲が波打つ日本らしい風景が思い浮かびます。

C 潮音（しおね）
「潮音」は、永遠に続く安らぎの音、海の恩恵を受けた暮らしをイメージすることができます。

B 瑞穂（みずほ）
「瑞穂」は、稲作をイメージしやすく、日本の自然や文化を象徴する名前です。

D 琴海（ことみ）
「琴海」という名前からは、海とともに暮らす弥生人の、優れた技術力がわかり、推薦します。

公聴会のプレゼンテーションは、子どもたちが各党の仲間と協力して主体的に準備していました。
また、フロアからの意見に対して、各党代表が応えていました！

②意見交流（フロアの人の意見を聞く）

弥生時代では、琴は神聖な道具として扱われていたし、海を通して青谷は栄えたので、とてもいい名前だと思いました。

海の恩恵を受けた名前なので、とてもいいと思いました。

調べて分かったことを、応援演説する子どもたちもいました！

③タブレット端末を使ってオンライン投票後、投票用紙でも投票を体験

全県のシステムに投票しましたが、投票用紙により稲葉山小の結果も分かります。

自分の意見が、直接結果に反映されるので、１票の大切さを感じながら投票しました。

【児童の感想より（一部抜粋）】

- どの党も様々な意見があり、どれも「なるほど！」と思った。最後の開票の時は、胸が高鳴った。
- 自分が推薦した名前は選ばれなかったが、次はもっと自分の考えを人に伝えられるようにしたい。
- 「ちいわか総選挙」を体験したことで、選挙の仕組みや、選挙にどんな思いで取り組んでいるのかが分かった。

【授業づくりに携わった土橋先生の感想】

普段は控えめな児童も、党に分かれて競う場面になると、俄然、積極的に取り組む姿が見られた。途中からは自分たちだけで、調べ活動やスライド作成を行い、主体的な学びの姿が見られた。これは、実際に社会参画を体験し、成果が形として残るという実感とプログラム自体のおもしろさが、子どもたちの健闘につながったのだと感じる。

中学校・義務教育学校後期課程では、県立美術館が掲げるキーコンセプト「オープンネス」を推進するに当たり、若者が期待することについて投票します。「ちいわか総選挙」は、子どもたちが、社会の一員としての自覚と責任を持ち、未来について考える大切な学びの機会です。自分の一票が社会や地域の未来を創ることを実感するこの機会が、子どもたちの主権者としての力、ふるさと鳥取を思う心の育成につながると信じています。